

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年8月9日
【四半期会計期間】	第52期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	田辺工業株式会社
【英訳名】	TANABE ENGINEERING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 四月朔日 義雄
【本店の所在の場所】	新潟県上越市大字福田20番地
【電話番号】	025(545)6500(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼上席執行役員管理部長 権守 勇一
【最寄りの連絡場所】	新潟県上越市大字福田20番地
【電話番号】	025(545)6500(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼上席執行役員管理部長 権守 勇一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 当第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第1四半期連結 累計期間	第52期 第1四半期連結 累計期間	第51期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	6,926,456	7,386,519	37,495,536
経常利益 (千円)	215,703	252,036	2,494,726
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	106,671	122,934	1,531,111
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	75,915	164,126	1,441,944
純資産額 (千円)	13,233,211	14,474,625	14,599,423
総資産額 (千円)	28,634,649	30,161,997	29,141,561
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	9.97	11.49	143.08
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	(-)	(-)	(-)
自己資本比率 (%)	46.2	48.0	50.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 連結売上高には、消費税等は含めておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産の弱さがあるものの、企業収益や雇用情勢の改善により、景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、米中貿易摩擦の深刻化、中国景気の減速による輸出停滞やコスト負担の増加等の不安定要素から、景気の先行き不透明感は一層強まってまいりました。

設備工事業界におきましては、公共投資では底堅い動きがあり、民間設備投資も一部に弱さが見られるものの、総じて底堅い動きが見られましたが、人手不足の影響などもあり、受注・価格競争は厳しい状況で推移しました。

このような状況下で、当社グループはお客様のニーズに合った設備の提案を積極的に行い、受注の確保・拡大に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a.財政状態

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,020百万円増加し、30,161百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,145百万円増加し、15,687百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ124百万円減少し、14,474百万円となりました。

b.経営成績

受注高は当社グループの主要顧客である化学業界において大型プラントの受注（機械・電気一体型）が前年同四半期に比べ若干低下しましたが、電力会社の設備・更新投資が好調に推移し、前年同四半期並みの12,848百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。売上高は前期繰越工事の完成や工事進行基準完成等により、7,386百万円（同6.6%増）となりました。

利益面につきましては、競争が厳しさを増すなか、施工体制の確立、施工効率の改善、原価管理の徹底等の取り組みにより、営業利益235百万円（同14.3%増）、経常利益252百万円（同16.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益122百万円（同15.2%増）とそれぞれ前年同四半期を上回りました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（設備工事業業）

民間プラント・機械装置を主体としております産業プラント設備工事は、近年増加傾向であった化学系プラントの増強、増設工事（機械・電気一体型）の受注が若干低下し、受注高は前年同四半期並みでしたが、売上高は工事進行基準による完成等により前年同四半期を上回りました。

民間プラント保全工事を主体としております設備保全工事は、客先工場の設備の更新、定修工事をはじめとする受注がありましたが、受注高は前年同四半期を下回りました。売上高は前年同四半期を上回りました。

電気計装工事は、産業プラント設備工事部門とのジョイントによる、民間プラントの増強、増設工事に伴う電気計装工事等の受注が若干低下した影響もあり、受注高、売上高とも前年同四半期を若干下回りました。

送電工事は、電力会社の設備更新投資等の受注高が好調であり、受注高、売上高とも前年同四半期を上回りました。管工事は、官公庁設備工事を中心とした受注があり、受注高は前年同四半期並みとなり、売上高は前年同四半期を上回りました。

この結果、設備工事業業全体では受注高12,534百万円（同0.1%減）、売上高7,085百万円（同7.8%増）となり、セグメント利益421百万円（同26.8%増）となりました。

（表面処理事業）

タイ国で事業展開しております表面処理事業は、HDD向け表面処理は不調であり、また、自動車部品の表面処理においては横ばいの傾向が続きました。受注高260百万円（同18.2%減）、売上高260百万円（同18.2%減）と前年同四半期を下回り、セグメント利益12百万円（同42.1%減）となりました。

（その他）

鑄造用工業炉は、受注高53百万円（同4.1%増）、売上高40百万円（同14.1%増）、セグメント利益2百万円（前年同四半期は5百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態及び経営成績の分析

財政状態の分析

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は30,161百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,020百万円増加しました。

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は21,828百万円となり、前連結会計年度末に比べ937百万円増加しました。主に受取手形・完成工事未収入金等、未成工事支出金の増加によるものであります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は8,333百万円となり、前連結会計年度末に比べ83百万円増加しました。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は13,452百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,253百万円増加しました。主に短期借入金の増加によるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は2,235百万円となり、前連結会計年度末に比べ108百万円減少しました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は14,474百万円となり、前連結会計年度末に比べ124百万円減少しました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の50.1%から48.0%となりました。

経営成績の分析

売上高

当第1四半期連結累計期間の売上高は7,386百万円（前年同四半期比6.6%増）となりました。

売上総利益

当第1四半期連結累計期間の売上総利益は1,139百万円（同10.3%増）となりました。

売上総利益率は前年同四半期を上回り15.4%（前年同四半期は14.9%）となりました。

販売費及び一般管理費

当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は、904百万円（前年同四半期比9.3%増）となりました。

主な費用は従業員給料手当及び賞与引当金繰入額であります。

営業外損益

当第1四半期連結累計期間の営業外損益（純額）は16百万円の収益（同71.7%増）となりました。

経常利益

当第1四半期連結累計期間は252百万円の経常利益（同16.8%増）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

当第1四半期連結累計期間は122百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益（同15.2%増）となりました。

1株当たり四半期純利益は11円49銭となりました。（前年同四半期の1株当たり四半期純利益は9円97銭）

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、9,324千円であります。また、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

なお、連結子会社においては、研究開発活動は特段行っておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,728,000	10,728,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数100株
計	10,728,000	10,728,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	-	10,728,000	-	885,320	-	1,475,320

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,699,400	106,994	-
単元未満株式	普通株式 1,600	-	-
発行済株式総数	10,728,000	-	-
総株主の議決権	-	106,994	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,600株含まれております。また「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数26個が含まれております。

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
田辺工業株式会社	新潟県上越市大字 福田20番地	27,000	-	27,000	0.25
計	-	27,000	-	27,000	0.25

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,557,487	4,016,182
受取手形・完成工事未収入金等	14,604,062	14,945,756
未成工事支出金	1,315,637	2,499,220
その他のたな卸資産	259,709	248,299
その他	155,815	120,327
貸倒引当金	1,430	1,465
流動資産合計	20,891,282	21,828,321
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,264,066	6,331,612
機械、運搬具及び工具器具備品	4,480,769	4,571,288
土地	2,422,591	2,435,849
リース資産	338,336	338,336
建設仮勘定	226,842	211,368
減価償却累計額	6,830,405	6,871,147
有形固定資産合計	6,902,201	7,017,307
無形固定資産	108,293	104,600
投資その他の資産		
投資有価証券	452,144	428,706
繰延税金資産	676,959	672,662
その他	110,679	110,397
投資その他の資産合計	1,239,784	1,211,767
固定資産合計	8,250,278	8,333,676
資産合計	29,141,561	30,161,997

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	7,467,210	6,935,309
短期借入金	480,000	2,160,000
リース債務	27,740	34,742
未払金	1,423,225	1,238,686
未払費用	351,013	338,504
未払法人税等	695,706	139,332
未成工事受入金	505,543	908,123
完成工事補償引当金	36,367	36,914
工事損失引当金	27,639	51,886
賞与引当金	1,020,367	1,402,282
役員賞与引当金	50,000	12,500
その他	113,551	193,931
流動負債合計	12,198,364	13,452,214
固定負債		
長期借入金	900,000	810,000
リース債務	105,662	98,754
長期末払金	132,500	130,000
退職給付に係る負債	1,205,610	1,196,403
固定負債合計	2,343,773	2,235,158
負債合計	14,542,137	15,687,372
純資産の部		
株主資本		
資本金	885,320	885,320
資本剰余金	1,475,320	1,475,320
利益剰余金	12,580,473	12,414,483
自己株式	7,020	7,020
株主資本合計	14,934,092	14,768,103
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	77,119	55,724
為替換算調整勘定	44,452	6,486
退職給付に係る調整累計額	367,335	355,688
その他の包括利益累計額合計	334,668	293,477
純資産合計	14,599,423	14,474,625
負債純資産合計	29,141,561	30,161,997

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	6,926,456	7,386,519
売上原価	5,892,968	6,246,721
売上総利益	1,033,487	1,139,798
販売費及び一般管理費	827,441	904,347
営業利益	206,045	235,450
営業外収益		
受取利息	33	72
受取配当金	4,159	5,095
受取地代家賃	9,311	9,295
その他	2,581	11,044
営業外収益合計	16,085	25,509
営業外費用		
支払利息	1,838	1,528
コミットメントフィー	2,494	2,494
為替差損	2,048	4,745
その他	46	154
営業外費用合計	6,428	8,923
経常利益	215,703	252,036
特別利益		
固定資産売却益	151	519
特別利益合計	151	519
特別損失		
固定資産処分損	0	0
固定資産売却損	-	1,529
特別損失合計	0	1,529
税金等調整前四半期純利益	215,854	251,026
法人税等	109,182	128,091
四半期純利益	106,671	122,934
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	106,671	122,934

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	106,671	122,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,801	21,394
為替換算調整勘定	41,756	50,939
退職給付に係る調整額	12,802	11,646
その他の包括利益合計	30,755	41,191
四半期包括利益	75,915	164,126
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	75,915	164,126
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第 1 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年 6月30日)
受取手形	32,381千円	3,639千円
電子記録債権	992	21,241

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 1 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第 1 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 1 四半期連結累計期間に係る減価償却費 (のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。) は、次のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 6月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 6月30日)
減価償却費	140,496千円	140,941千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	214,019	20.0	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

(注) 当社は2017年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割後の実際の配当金の額を記載しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	288,924	27.0	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	表面処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,572,090	318,896	6,890,986	35,469	6,926,456
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	6,572,090	318,896	6,890,986	35,469	6,926,456
セグメント利益又は損失()	332,761	20,761	353,523	5,053	348,470

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである鑄造用工業炉事業等でありま
 す。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額
 の 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	353,523
「その他」の区分の利益	5,053
全社費用(注)	142,424
四半期連結損益計算書の営業利益	206,045

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	表面処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,085,112	260,942	7,346,055	40,464	7,386,519
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	7,085,112	260,942	7,346,055	40,464	7,386,519
セグメント利益	421,827	12,019	433,847	2,655	436,503

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである鑄造用工業炉事業等でありま
 す。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額
 の 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	433,847
「その他」の区分の利益	2,655
全社費用(注)	201,053
四半期連結損益計算書の営業利益	235,450

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	9円97銭	11円49銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	106,671	122,934
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	106,671	122,934
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,700	10,700

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月9日

田辺工業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 塚田 一誠 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野田 裕一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている田辺工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、田辺工業株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。